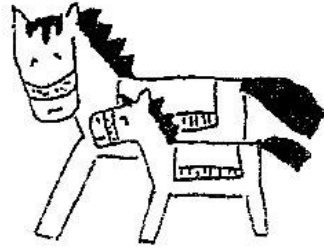


♪
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリと

29年 7月 NO.272



〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<http://oumanooyako.sakura.ne.jp/>

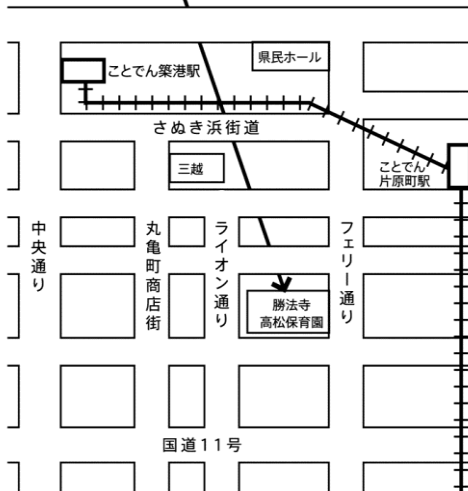
(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～		7月の主な活動		～お気軽にどうぞ～	
7月 8日	土	体験保育 10:00～12:00	体験保育 10:00～12:00	同じ年齢のクラスに入って いっしょにあそびましょう。	
7月 19日	水	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	「子ども虐待防止ネットワーク・かがわ」 の小西昭子氏に会の紹介や現状について 話していただきます。	
7月 22日	土	体験保育 10:00～12:00	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方も育児体験をしてみましょう。	
7月 22日	土	絵本と小物づくり 14:00～16:00	絵本と小物づくり 14:00～16:00	からくりおもちゃのクルリンパーを つくります。(予約要 7/20まで)	
7月 28日	金	おはなしの会 10:00～11:30	おはなしの会 10:00～11:30	「生きもの発見!」をテーマに大型絵本 やパネルシアターを楽しみましょう。	
7月 28日	金	健康・育児相談 10:00～12:00	健康・育児相談 10:00～12:00	園医師(小児科)にゆっくり 相談できます。(予約要)	

・火～土の9:00～18:00までは、園内開放して
いますので、親子でご来園下さい。
(但し、月・日曜・祭日は休み)

育児相談(月～土) 9:00～18:00
しつけや子育てについての悩み、保育園生活
入園・見学についての相談もどうぞ。

香川県高松市御坊町2-2
高松保育園 地域子育て支援センター



金子みすゞ童話全集⑤
「さみしい王女・上」より

どこかの軒(のき)の提灯が、
またひとつ、消(きイ)えた。

ひとつ、ふたつ、みイ
お空に星がふっえた。

遠い通りを自動車で、
わっと嘩(はや)して
空ゆくように、きイ

誰もとおらぬ、ぬかるみに、
消えた提灯(ちようちん) 映ってる。

五穀まつりの夜更(ふ)けて、
いまはちらほら星が出た。

ざんざんの雨に流された、
五穀まつりの夜更(ふ)けて、
いまはちらほら星が出た。

雨の五穀祭(ごこくまつり)



子どもとの関わり方ワンポイント No1

真正会富山病院心療内科 明橋 大二

～子どもの心の成長は、依存と自立の繰り返し。 子どもの甘えを受け止めよう～

子どもの心は、依存（甘え）と自立を繰り返して大きくなります。

依存しているとき、子どもは安心感を得ます。じゅうぶん安心感を得ると、次第に不自由だと感じるようになります。自由になりたい、自分でやりたいと思い、それが意欲となり、自立の世界へ向かいます。

ところが自立の世界は、自由ではありますが、同時に不安な世界です。その不安があまり大きくなると、子どもは依存（甘え）の世界に戻ってきます。そこでじゅうぶん安心感を得ると、また自由になりたいと意欲が出て、子どもは自立の世界に向かうのです。

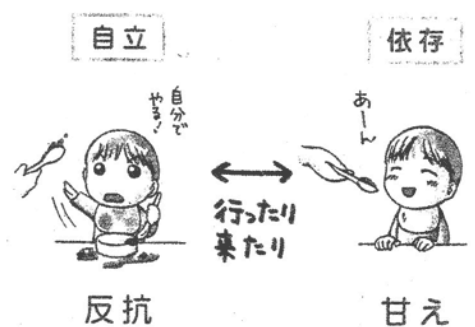
自立の反対は、甘えですから、甘えさせないことが自立させることだと思われがちですが、実際は逆です。「甘えたい人が、自立する」のです。

ところが世間では「甘え」はよくないと誤解されています。それは一言でいうと、「甘えさせる」と「甘やかす」の違いを知らないからです。

「甘えさせる」ことは、子どもの心の成長に必要で、大いにしているのですが、「甘やかす」ことはしてはいけません。

どう違うのかというと、「甘えさせる」とは、子どもの『情緒的な要求』に応えること。「抱っこして」「話を聞いて」とか、子どもが泣いたら、しっかり対応すること。これは大いにしているし、いくらやっても「甘やかす」にはなりません。

逆に「甘やかす」とは、子どもの『物質的な要求』に、言うがままに応えること。お菓子やおもちゃ、お金を要求のままに与えることは、「甘やかす」ことであり、よくありません。



ですから、子どもの情緒的な要求にはしっかり応えて、そのかわり、物質的な要求にはきちんと制限することが大切です。

今の世の中、ともすればこれが逆になっています。毎日親も忙しい、情緒的な要求に応えきれない。その埋め合わせに、休日にショッピングセンターで好きな物を何でも買ってしまふ。そのように育てられると、子どもは、自分の心の寂しさを物で埋めようとする子になってしまいます。

もう一つの違いとして、「甘えさせる」には、子どもがどうしてもできないときに、大人が手助けすることが含まれます。これもとても大切で、これによって子どもは、周囲への信頼感を育みます。「助けを求めれば、ちゃんと助けは得られるんだ」と思います。

逆に、「甘やかす」とは、子どもが自分でできるのに、大人が手を出してしまうこと。これは「過干渉」といって、よくありません。

ですから、子どもが自分でできることは、失敗を恐れずどんどんさせていく。しかしどうしてもできないことはしっかり手助けすることが大事です。



～子どもの発達段階に合わせた“しつけ”～

しつけとは、一言でいうと、自分をコントロールする術を身につけることです。

具体的には、基本的な生活習慣と対人関係（社会）でのルールを守ることです。しかし、それを教えるときには、子どもの発達段階に合わせた対応が必要です。

○0歳～1歳のしつけ

赤ちゃんは、自分の気分や欲求を感じることはできますが、相手の気持ちを理解することはできません。

ですから、この時期の子どもに、ルールを作って守らせようとしても、無理です。この時期はむしろ、保護者が環境を整える（危ないものはそばに置かないなど）ことが必要です。

○1歳～2歳のしつけ

子どもは、保護者の言葉や指示をだいぶ理解できるようになりますが、まだそれに従うことはできません。何かにつけて「イヤ！」を連発します。

この自己主張を認めて、つきあっていくことで、保護者に従っても、反抗しても、ちゃんと自分のことを見ていてくれるんだ、ありのままの自分でいいんだ、という自己肯定感が育まれるのです。

○2歳～3歳のしつけ

子どもは、相手の言葉を理解できるだけでなく、自分の意志をかなり上手に伝えられるようになります。

しかしまだ、保護者の指示に従うことは十分にはできません。また、ほかの子どもと一緒に遊んだり、協力したりするには、保護者の助けが必要です。

いばったり、わがままや気まぐれな行動をとったりすることが多く、集団遊びがうまくできないこともあります。自己主張のぶつかり合いになります。

その中で、子どもは、対人関係のルール、言っていることといけないこと、やっていいことといけないことの区別を学んでいくのです。

○3歳～5歳のしつけ

子どもは、簡単なルールを守れるようになります。また他人の気持ちを理解できるようになります。

ただ、そのときの気分に左右されることも多く、日によって大きく差があります。

- (1) 保護者は、何が正しいことなのかをきちんと教える必要があります。
- (2) 何か間違ったことをしたときは、どこが間違いなのかを話して、次からはどうしたらよいか、子どもに考えさせます。
- (3) 保護者が、子どもにどういう子になってほしいか、きちんと言葉にして伝えることが大切です。

いずれにせよ、結果をあせらず、根気強く繰り返し教える、という心がけが大事です。

*8月は「子どもの関わり方ワンポイント No2」として、“子どものけんか”と“子どものがんばりを認める”をお伝えします。



○ 自己主張を認め、つきあう